

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-22-1 事業名 都市公園事業（浅見川地区防災緑地）※施設費 事業番号 D-22-2 事業名 都市公園事業（浅見川地区防災緑地）※用地費
事業費 総額 2,855,951 千円（国費：2,115,185 千円） 内訳：施設費 2,534,619 千円（国費：1,900,964 千円） 用地費 321,332 千円（国費：214,221 千円） 盛土工、植栽工、園路工等
事業期間 平成 24 年度～平成 29 年度
事業目的・事業地区 防災緑地は、東日本大震災の津波により浸水被害を受けた浅見川地区において、総合的な防災力の高い復興まちづくりを実現するため、多重防御施設の 1 つとして整備されたものである。 事業地区 双葉郡広野町浅見川地区
事業結果 D-22-1 ※施設費 平成 28 年 12 月 7 日供用開始。 延長 2.0 km 高さ T.P+10.7m 面積 9.4ha D-22-2 ※用地費 平成 29 年度、用地取得完了
事業の実績に関する評価 ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 防災緑地は、津波被害を軽減する防災機能の他に、観光・レクリエーション等の地域振興機能、景観や環境の再生・形成機能を持っており、計画段階から地域と連携し事業を完了させた。 (1) 津波被害を軽減する防災機能（樹木による津波減衰、避難時間の確保、漂流物捕捉） 耐潮性に優れたクロマツを植樹し順調に生育している。今後、クロマツが成木となり防災機能を発現するよう引き続き適切に管理を行う。 (2) 観光・レクリエーション等の地域振興機能 防災緑地の園路は、日常的な散策路して地域の方々に親しまれている。また、防災緑地は、震災の伝承施設として他の施設とネットワーク化し、広域的な観光資源として期待される。 (3) 景観や環境の再生・形成機能 津波で失われた沿岸部の樹林景観を再生し、地域のグリーンインフラとして貢献している。 ② コストに関する調査・分析・評価 ・ 広野町が策定した復興まちづくり計画を基本として事業規模を計画しており適正な規模で整備された。 ・ 防災緑地の盛土材として、他工事からの流用土を活用し、コスト縮減を図った。 ・ 事業費については、工事や委託業務の受注者を競争入札により選定していることから妥当である。 ・ 用地の買収単価については、鑑定評価に基づき決定しており適正である。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

- ・ 想定した事業期間 平成24年11月～平成28年3月
- ・ 実際に事業に有した事業期間 平成24年11月～平成30年2月
- ・ 防災緑地の施工にあたっては、隣接する区画整理事業や道路整備事業との工程調整が必要となり、計画よりも事業期間を要することとなった。
- ・ 防災緑地の計画策定にあたり、地域の方々とワークショップを重ね合意形成を図った。この結果、ひろの防災緑地サポーターズクラブと広野町、県で管理協定を締結し、3者協働による管理運営体制を構築することができた。

事業担当部局

福島県 土木部 まちづくり推進課

電話番号：024-521-7507

〈位置図〉

〈施行前写真〉



〈竣工写真〉

